

第3回「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」 円卓会議「17世紀東アジアの国際関係ー戦乱から安定へー」

@第4回アジア未来会議

趣 旨

東アジアにおいて「歴史和解」の問題は依然大きな課題として残されている。講和条約や共同声明によって国家間の和解が法的に成立しても、国民レベルの和解が進まないため、真の国家間の和解は覚束ない。歴史家は歴史和解にどのような貢献ができるのだろうか。1600年を挟む約1世紀は東アジアが3度目の大規模な戦乱に直面した時代であった。東アジアには中国市場が世界に求めていた銀を朝鮮から製錬技術を学んだ日本が大量に供給したことを一因として緊密な経済関係が生まれる一方、経済繁栄は域内の諸民族に政治的覇権への欲望も生み出した。日本の豊臣秀吉と満洲のホンタイジによる各2度の朝鮮侵攻および満洲族による中国での清朝の創立である。経済の相互依存の深まりと各国の覇権争奪の同時進行が生んだ大規模な戦乱、およびその後の長期安定は、現代の東アジアに対して深い自省を促すことであろう。ただし、この会議の目的は何らかの合意を得ることにはない。立場によりさまざまな歴史があることを確認した上で、「対話」により相互の理解を深めてゆくのが目的である。

《日・中・韓同時通訳付き》

The 4th ASIA FUTURE CONFERENCE



日 時

2018年 8月 24日(金) ~ 8月 28日(火)

会 場

韓国ソウル市Kホテル 3F Geomungo B

和解

【基調講演】

趙 珖（韓国国史編纂委員長）「17世紀東アジア史の展開と特性
—韓国史の展開を17世紀の世界史の中でどのように眺めるか」

【研究発表】

日本	荒木 和憲	Araki Kazunori	国立歴史民俗博物館	「壬辰戦争」の講和交渉
日本	鈴木 開	Suzuki Kai	東京大学	「胡乱」研究の注意点
日本	牧原 成征	Makihara Shigeyuki	東京大学	日本の近世化と土地・商業・軍事
韓国	崔 永昌	Choi Youngchang	国立晋州博物館	韓国から見た壬辰倭乱
韓国	許 泰玖	Huh Taekoo	カトリック大学校	「礼」の視座から見直した丙子胡乱
韓国	崔 姪姫	Choi Joohee	国学振興院	17世紀前半の唐糧の運営と国家の財政負担
中国	趙 軼峰	Zhao Yifeng	東北師範大学	中朝関係の特徴および東アジア国際秩序との繋がり
中国	祁 美琴	Qi Meiqin	人民大学清史研究所、 『清史研究』編集長	ラマ教と17世紀の東アジア政局
中国	鄭 潔西	Zheng Jiexi	寧波大学人文学院	欺瞞か妥協か——壬辰倭乱期の外交交渉

プログラム詳細：<http://www.aisf.or.jp/sgra/research/kokushi/2018/10227/>

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：科学研究費新領域研究「和解学の創成」、早稲田大学東アジア国際関係研究所、ソウル大学日本研究所

助成：東京倶楽部

問い合わせ：

東京都文京区関口3-5-8

渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

e-mail：sgra.office@aisf.or.jp



<コア・メンバー>

- ① 葛兆光（復旦大学）
- ② 趙珖（韓国国史編纂委員長・高麗大学名誉教授）
- ③ 三谷博（跡見学園女子大学・東京大学名誉教授）
- ④ 劉傑（早稲田大学）